

地域の祈りの気持ちを つなぎ続けて

今年で創業62年を迎える松橋仏壇店では、時代に合わせた仏壇の提案や修理を行っています。家族で本店と砂川店を営む同店の歴史と職人の作業について話を聞きました。

地域の仏壇店として 親子3代で紡ぐ

先祖や家族とのつながりを感じ、大切な人を亡くした悲しみを乗り越えるときに手を合わせる仏壇は、信仰する本尊を祀った小さな寺のようなものとされています。

唐木仏壇とよばれる、黒檀などの銘木を使った仏壇は、精巧な彫刻や装飾が施され、木目が美しいのが特徴。漆黒の面に金粉や金箔を施した金仏壇はまさに寺院を思わせる荘厳な作りです。これらの仏壇の中には日本古来の技法が使われ、経済産業大臣から伝統的工芸品として認定されているものもあります。伝統的な仏壇は、代々の先祖を祀るのにふさわしい様式として今も必要とされる一方で、時代

とともに住宅事情やライフスタイルが変容し、インテリアに馴染みやすいデザインの家具調仏壇が現代の主流になっています。「リビングに馴染む仏壇は必要だと思っています。大切な人を失うのは何にも代え難い苦痛。それを和らげる役割もある仏壇が、生活の中に溶け込めるものであるならいいのではないのでしょうか」と話すのは松橋慎悟さん。社長・松橋和博さんの長男で、今は砂川店の店長を務めています。販売の6割は家具調仏壇ですが、空知地域は農業従事者が多く、長く仏壇を守ってきた家もあり、伝統的な仏壇も根強い人気があるといいます。

松橋仏壇店の創業は1960年。和博さんの父である、故・松橋正五郎さんが今も本店がある滝川市一の坂に店舗を開いた



砂川店・店長の松橋慎悟さん(左)と、本店を守る博子さん。本店の奥には荘厳な金仏壇が置かれている



のりが乾ききらないうちに金箔を貼る作業は、正確さと素早さが求められます

の仏具を修理することで、地域の人たちに店を知ってもらえるようになっていったといいます。

大切な仏壇を 丁寧な技術で直す

現在、松橋仏壇店で職人として修理を担うのは、正五郎さんから技術を引き継いだ和博さんと、次男・照悟さん。仏壇の開け締めを繰り返すうちに障子などの金具が壊れたり、手入れの際に塗面をこすりすぎて剥けてしまったりして、修理に持ち込まれるときが多いといいます。

特に扉などに使われている金具は化粧釘という極細い釘が使

われています。外から見えないように打たれているため、作りを熟知した職人でなくては、直すのが難しい部分。「簡単な修理ならお客さまのお宅で直しますが、そうでないものは工房に運んで直します。修復内容によっては全ての部品を一つひとつ分解してから塗り直し、また組み立てることもあります」と説明する照悟さん。

金仏壇の欄間や宮殿などの金箔を張り替える作業は、特に入

念な作業が求められます。「装飾が細かい部分よりも背板などの平面に施す作業の方が難しい。金箔が破れないようにしわを伸ばし、鏡のように仕上げなければなりません。10年やっています。平面的な張り替えを父からやらせてもらえるようになったのは、ここ最近です」と照悟さんは苦笑いを浮かべます。

塗料の扱い方や研磨で使う研磨紙の選び方など、正五郎さんの技術は父・和博さんから受け継いだもの。先祖を大切に、長い間仏壇を使ってきた家族の気持ちも汲みながら、丁寧な作業を心がけています。

本店を切り盛りする博子さんは社長の妻であり、店の看板的存在。「先代からのお客さんも多く、とてもありがたい」とはほ



仏壇の現代化に合わせて、盆提灯もモダンなものになってきていますが、昔ながらの盆提灯もまだ需要があります。「三足型の盆提灯を飾ると、お盆が来たと思わせてくれますよ」と、博子さん(写真上)。宗派によっては線香を横に寝かせるため、横置き型の香炉を探していたという客が多く、店に置くようにしているといいます(写真下)

3代目として店を継ぐ覚悟を固めている慎悟さんは、「いろいろな宗派に対応していると、宗派の特徴を調べるようになり、仏教の面白さにひかれていきました。同時に歴史にも興味が湧いてくる。とても特殊な業種だと思っています」と、仏壇店を営む魅力を語ってくれました。「仏壇や仏具の揃え方や扱いについ



①さまざまな種類の刷毛を使って金粉や金箔を扱います②仏壇に合わせて塗料を配合します③20年ほど前までは葬儀も扱っていたことから、本店近くの12号線付近には今も倉庫が残ります

て知らないと思わずかしいと思う方もいますが、知らないのが当然。知っているといるということは、それだけ不幸を見ていること。知らないほうが幸せだったんです。だからどんなことも遠慮なく聞いてほしい」と続けます。

親子3代で築いてきた店を守り、祈りの拠り所である仏壇を大切に扱う志でこれからも地域の人たちに寄り添い続けます。

有限会社 松橋仏壇店

本店 / 滝川市一の坂町東3丁目1番4号
TEL 0125-23-3728

砂川店 / 砂川市東1条北1丁目1番2号
TEL 0125-74-5305